

2018年 第12回中部 NGO-JICA 中部地域協議会  
草の根技術協力事業の質の向上、裾野拡大に向けて

NPO 法人 DIFAR 事務局  
瀧本 規久子

## 1. 団体の紹介、特に草の根技術協力事業について

### ①申請から採択活動開始まで

2011年10月 PDM作成 当時 JICA 職員の方に 手取り足取り教えてもらいながらの作成

2011年12月に関心表明書 提出

2012年4月に採択内定

PDM.PO の見直し

AMCB 署名（協力基本協定文書）

NGO 登録

相手国に了承取付（M/M）

2013年6月開始 採択後1年以内という制限があって この月が最終可能月だった。

AMCB の手続きが進まなかった。

### ②草の根案件実施まで

■関心表明書の段階から、JICA の担当者に相談したところ、非常に親身になって相談に乗っていただき、アドバイスを受けながらの作成だった。

■採択が内定されてから、AMCB 署名や、NGO 登録など、首都ラパスに行かないとできない業務、また、何度も足を運ぶ必要があり、活動地域からは、車と飛行機を乗り継いでいくことは時間的にも経済的にも大きな負担であった。

思うように手続きが進まない中、現地 JICA 事務所の担当者の方にずいぶん助けていただき、活動を開始することができた。

### ③実施後

■ 草の根で 建物を建てることの大変さを実感した。

国際ボランティア貯金で堆肥場を建設させていただいたが、JICA の場合は手続きが非常にハードルが高かった。

一般競争入札、建設に必要な検査項目など、建設関係の素人の当会のメンバーにとって JICA の進め方もよくわからない中で 1年目に約2000万近くの建設費用の予算を委託してもらったわけだ。

JICA 側の質問や、ルールに対応できず、大変手を煩わせたと思う。

競争入札に関しては ボリビアで建設の仕事をしていた、名古屋の専門家にずいぶんアドバイスをいただくことができた。

- 当会の会計担当者は 元大学の職員であったため、事務手続きも含めて、慣れている人だったのが良かったと思う。現地で仕事をするプロジェクトリーダーは、現地住民サイドから、国内事務局担当者は JICA サイドで 考えていこうとするところが、団体内で少しは調整できたかなと思う。

#### ④協力隊との連携について

- 2015年9月に在サンタクルス領事事務所主催の「バジェグランデ日本祭りと運動会」を協力隊員と共に 運動会、空手のデモンストレーション、日本アニメの上映会、盆踊り、日本食作り方講習会などを行った。

※JICA ボリビア事務所から ネガティブな受け答えがあったという現地からの報告で対応に苦慮したが、(直接隊員とやり取りをし、現地の連携を DIFAR と隊員でしようとなっても「棲み分けを行ってください」「隊員は隊員の活動を優先してください」「係る経費はだせません」など) 振り返って読んでみると、JICA 側の回答は常識的な回答で、現地スタッフが隊員の要請をする順序が 違っていたから このような行き違いになったのかなと振り返って反省する。

- 他県に派遣されている シニアボランティアの汚水処理の専門家に 現地に来ていただき、問題になっていたリサイクルセンターの汚水処理の指導をしていただくことができた。

- 現地でやっているリサイクル事業を近隣の市から見学に来た。その市に派遣されている協力隊員が(環境教育)プロジェクトを市と一緒に作成し、DIFAR から申請を出した。(地球環境基金)申請は採択され、プロジェクトの実施の1年目を協力隊員がプロジェクトマネージャーとして実施し、2年目、3年目は DIFAR の現地代表が担当している。この協力隊員はその後 帰国し復職をしているが、3年目のプロジェクトに参加したく、今年度9月から再度プロジェクトマネージャーとして現地に帰り活動を行う。

隊員とNGOの中で需要と供給が一致して配属先も了承すれば積極的に人員を活用し、よりよいプロジェクトや隊員自身の活動につながるとおもわれる。

その為にも 進めていく順序などのルールを学んで、円滑に物事が進むような努力をすることで、良い結果を出せたら プロジェクトにとってもプラスになると思う。

#### ⑤結論

- 全く初めての草の根技術協力事業の5年間を終えて、現地スタッフ、国内スタッフともに 大変良い経験をさせていただいたという感謝の気持ちがいっぱいです。よちよち歩きのスタッフを育てていただいた感謝の気持ちです。

- それまでの 任意団体として活動していた時には、会員さんと向かい合っ  
て一緒に進んでいるという感じでしたが、委託事業を受けることによっ  
て、事務作業が増え、心の向く方向が変わってきたように思う。
- 当初、そのことに疑問を持った時期もありました。しかし、当初からの会  
員は、このような流れに否定的ではなく、活動の幅が広がったことを喜ん  
でくれている。
- 団体の在り方や目指していく方向や目的・目標の立て方など、考えるき  
っかけとなった。